



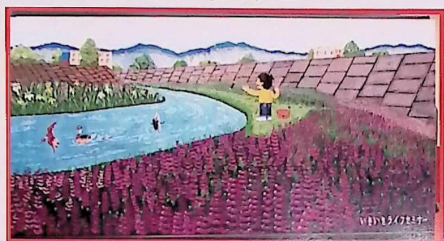
「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っている。

発行：誇りと夢・まちづくり日新広報部  
文京5-1-8 日新公民館  
発行日：2011年3月23日

日新  
荷日に新たに  
日々新たに  
又日に新たなり  
出典「大学」

# にっしん

## ☆ちぎり絵完成☆



いきいきライフセミナーでは、22年度の共同製作として「ちぎり絵」に取り組み、このほど完成しました。作品を観ながら、よく頑張ったな、我ながらよく出来たなと自画自賛しているところです。

当初取り組みを決定したのは良かったものの、さて何をモチーフにしたらよいか、最も悩んだところ。ひとつづくり、地域の

活性化をはかり、地域の誇りと良さをいかにして来館者や子ども達に伝えていくかを中心に検討を重ねました。議論の末、日新地域を最も表現するものとして、「底喰川」を取り上げ、それに「みそはぎ」と日新の歳時記である「底喰川ウオッチング」を取りあげることにしました。

製作は、イラストづくり、和紙の色染め、貼り付けとすべてが手作業の連続。中でも全体の遠近、魚釣りのこともやみそはぎの表現にはなみなみならぬ苦勞がありました。しかし、作業の回を重ねる毎に「体」になっていく絵を見てるといつい興奮を覚えました。と同時に、共同作業のすばらしさをかみしめることが出来ました。

作品は、講師の磯田滋子先生はじめ公募の方々やセミナーの皆さんに大変なお力添えをいただいた集大成です。ここにご報告するとともにスタッフに心から感謝したいと思います。

作品は、公民館正面の壁に掲げてあります。地域の皆様には、是非来館の上「誇れる日新」を覗いていただければ幸いです。



(いきいきライフセミナー運営委員長 前川栄寛)

### 福井大学国際交流学生宿舎・留学生会館を知っていますか？

福井大学国際交流学生宿舎及び留学生会館は、日新公民館の東側にあり、上里宿舎の北側に隣接しています。私の住む上里宿舎とは、住人も管理も全く異なるので、今まで詳しくは知りませんでした。今回は、福井大学学生サービス課留学生係にお話を伺いました。

国際交流学生宿舎は、A・B・C棟の3棟から成る福井大学の学生寮です。日本人学生(約170名)、留学生(約30名)合せて、約200名が居住。この宿舎に住む留学生は、1年以上の長期滞在の学生で出身国は、中国、ラオス、ベトナム、ドイツなどです。一方、留学生会館は、A・B棟の2棟で、1年以内の短期留学の学生を受け入れており、現在、30数名の留学生が住んでいて、アメリカ合衆国、インドネシア、韓国、中国、ドイツ、フィリピン、フランス、ミャンマーなど出身国は様々です。ちなみに、福井大学全体では約250名の留学生が在籍しており、8割程度は中国人学生とのことです。上里宿舎の外路では、日本人学生や留学生と住人や子どもたちが気軽に挨拶する姿を見かけます。(上里大学自治会、庄司)



国際交流学生宿舎



留学生会館

### わがまち匠



調理師(福井市技能功労者)

大熊英幹さん(50) 文京5

平成22年度福井市技能功労者(調理職)で表彰を受けられた大熊さん。

一流の調理師を目指し四国から上京、銀座・池袋にて修業を積むこと17年。次いで素材の良さを求めて奥様の実家、福井に来られたそうです。日新に住んで16年、すっかり福井の人に。ホテルの和食店でご活躍のころは、読者のみなさんも氏のお料理を口にされた方もいらっしゃるのでは。その後「映良」を開店してからも日々の研鑽に励まれ、この度の受賞となりました。

福井県調理技能士会主催の県産食材を使った創作弁当コンクールの会場(ホテルF)で取材。お話を伺いました。



受賞の額と喜びの大熊さん

★ふぐの正確な調理技術やオリジナル性に優れた細工鮎の製作など業界の模範となる日本料理人であり、数々の料理技術会で入賞しています。主婦を対象とした料理講習会や福祉施設での料理ボランティアなど、社会活動にも熱心に取り組んでいます。

(市政広報ふくいより)

## 日新春秋

災害の経緯

阪神淡路大震災の時神戸にいた私は、早朝ドカインと下から突き上げられるような、近くで爆発事故でもあったかと思われる衝撃を受けました。まさか地震とは思わず、立ち上がろうと思った時に横揺れが来て、初めて「地震だ！」と感じ外に出ました。車内でラジオ放送を聞き神戸方面で大地震があったことを知りました。

夜が明け、車の横の道路に10cm×20cmの割れ目がありビックリ。社員の安全確認及び他の人の安全はどうかそのことだけで頭の中がいっぱい。自分が今何をできないか話しかけよう、みんながパニック状況でなにもできなせんでした。

また偶然にも、中越沖地震の時にも現地にいきました。その時は、近くにいる人たちにあわてないように呼びかけ、安全な場所に誘導することができました。

今年11日「東北地方太平洋沖地震」が日本全土を襲い、地震、津波の恐ろしさを目の当たりにしました。16年の福井水害以来「防災」について取り組んできましたが、あの津波のひどさ、パニック状況を今後の「防災」に少しでも生かす努力の必要性を痛感しました。

誇りと夢・まちづくり日新  
実行委員長  
宮川英樹





**乾徳地区 和田家**  
7人家族です。海司（かいじ 3 男 1 歳）がヨチヨチ歩き出して家の中を右左。ふすまは穴だらけ。大輝（だいき 二男 5 歳）はおじいちゃんが詩吟を始めると一緒に「アーエー」と歌います。お兄ちゃんはサッカーで頑張っています。

**堀ノ宮地区 嶋田家**  
毎日娘家族と、息子家族に囲まれて、また、お客様にも助けられて、60歳を過ぎても頑張って仕事をしています。いろいろなことに感謝をしています。孫たちにも感謝を忘れない人になってほしいです。



## 誇りと夢・わがまち創造事業

### 交通部会 次年度へ向けて

高齢者にやさしい、子どもたちに元気のある、また利便性の良い地域巡回バス『コミュニティバス』の運行について、交通部会として意見を申し合ひ検討を重ねてきた。

発着地はどこが良いか、買物、病院への利便性はどうか、小学校経路が良いかなど、コース設定、時間帯によるコース変更、運賃はどうかなど多種多様な意見が出され、コミュニティバスへの関心の高さが伺える。また部員の意見だけでは未解決事項もあるので、福井市交通政策室より部会に出向いてもらい、質疑応答と先進地事例を説明してもらった。日新地区は市街地周辺地域に属していて、福井市郊外の先進地事例となっている中山間地（川西・鶯・本郷地区・酒生地区）から比べると、まだ住みよい環境にあると言える。



地域環境は違っていても参考事例として考慮していきたい。今後、暫定コース設定などを検討し、次年度に向けて煮詰めていきたい。

### 環境部会 布ぞうり作り

エコの取り組みを進めている環境部会では、使い古した布を再度甦らせようと、古着を使った布ぞうりの作製体験を行いました。これは、物を大切に、勿体ないの気持を、強いては環境改善も認識をしていたかどうかの思いで取り組んだものです。

参加者は30名で、約2時間の体験でした。作製は、足羽公民館の全面的な協力と指導をいただき、事前の学習会と、はなお作りなど事前準備から始めました。初めての取り組みでもあり足羽公民館の指導者（5名）から、作製上のポイント・注意点などの説明を受け、早速作製に取りかかりました。予定では、当日は片方のぞうりが出来ればと言う思いで時間設定しておりますが、早い人では両方を仕上げました。

参加者は、出来上がったぞうりで早速履き心地を体験、足に履くと、温もりと心おどる手作りの良さを実感していました。是非家でも作りたいと意気込んで帰られました。今後は、こうした取り組みを裾野拡大にどうつなげていくかが課題と考えています。



### 文化部会 百人一首かるた大会



2月6日（日）9時30分から、日新公民館で6班に分かれて大会が展開されました。参加者は、親子・小学生・高齢者の皆さんと文化部スタッフの協力で、49名が楽しいひとときを過ごしました。

「坊主めくり」では井上結里さんが79枚取って1位、「日新かるた」では田辺あすかさんが19枚で1位、百人一首では徳島さんが40枚で1位でした。全員が参加賞をもらい、カレーライスをみんなにいただき大会は終了しました。次回に向けて頑張ってください。



「集めたエコキャップどうなるのかな？」

「パレットになるんだね」(\*^\*)v



前期の回収品  
32,680個  
ワクチン  
40,8人分

### トピックス

#### エコキャップの回収活動

日新小学校では、ペットボトルのキャップを回収しています。10月14日（木）、再生工場「アルパレット」さん（坂井市丸岡町）に、6年生児童代表2名と先生、PTA厚生委員の計5名で、日新小学校で集めたペットボトルキャップを搬入し、再生の様子も見学させていただきました。

『エコキャップ回収』とは、ペットボトルのキャップを集めてリサイクルし、海外の子どもたちにワクチンを提供するボランティア活動です。

キャップ800個で、ポリオワクチン1人分を提供することができるしくみです。また、無駄なごみを減らすことで、資源の再利用・CO<sub>2</sub>の削減にも貢献することができます。

日新小学校では環境委員会を中心に活動して、年2回業者に搬入しています。

環境にも人にも優しい「エコキャップ回収」。これからも活動を続けていきますので、ご協力よろしくお願いします。（公民館でも回収しています）

### 底喰川 その4

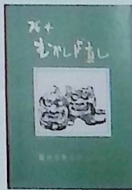
—地名の由来と底喰川にまつわるはなし—

「むかしの底喰川は、その名前のように、洪水になると底を喰うほど荒れ、たいへんおそれられていたそうです。一略— 文明(注)のころ、右馬頭(うまのかみ) 光久がここに住みつき水位を低くして、この地を開拓しました。ところが底喰川の水位がさがると、ここにすんでいた川主の大蛇が、悪いたずらを始めました。よなよな、あやしい女に化けて、通行人を川へ引きいれます。人びとはおそろしくて、夜の出あるきも船のいきもできなくなりました。光久はある夏の夜、淵の畔(ほとり)にさしかかると、あやしい女が現れました。そして、うまく話しかけながら、光久の袖をもつごい力で引きました。光久は抜打ちにその妖女の片耳を切りおとしました。そして『今すぐ、この底喰川から立ち去れ、命だけは助けてやる』という、あやしい女は大蛇になって、川の中へにげていきました。—以下略—」

(注 文明は西暦 1469~1486)

「福井むかしばなし」に載っています。この本は昭和48年、福井市教育委員会が福井の人々に語りつがれている物語などの保存を考え、皆さんに呼びかけて収集し編集されたものです。

また昭和45年2月発行された杉原丈夫編「越前若狭の伝説」には、底はみ川として「むかしこの川に底はみという恐ろしい大蛇がいて見る人の肝をうばったのである。」と。



### 広報部会

今年度、ゆめ・にっしんを4回（14・15・16・17号）発行しました。「いつも楽しみに読んでさ！」との声援を励みに、新たな日新の人・歴史・ホットなニュースで次号へつなげたいと思います。

★HPも随時更新していますので、ぜひご覧ください